

地域協議会で現在審議中の自主的審議事項一覧（R7. 12. 25現在）

No.	地域協議会	審議事項	審議 開始日	概要 ※審議開始時のもの
1	春日区	子どもたちが愛着を持てる春日 ～春日愛の継承～	R7. 4. 9	市内で地域自治区の人口を比較した際、春日区では、現在は子どもの人数は多いが、将来的に少子化が進行していくことを見据え、子どもたちが春日地域に愛着を持ち、長くかかわることができるよう、取り組む。
2		誰もが誰かとつながっている春日 ～春日流儀～	R7. 4. 9	現在、人口の多い春日区でも、将来の高齢化や組織の役員の確保、空き家管理の心配など様々な懸念がある中、それらを解消するための助け合いのコミュニティを維持すべく、人と人とがいつまでもつながっていられるよう、取り組む。
3	津有区	地域での新しいコミュニケーションの在り方について	R7. 11. 18	地域や世代間の更なる交流を図り、将来を見据えた新たなコミュニケーションの在り方について検討するもの。
4	三郷区	地域全体で高齢者や子どもたちを支え合うまちづくりの推進について	R7. 1. 28	高齢化がすすむ地域で、生活の不安はどのようなことがあるか、今後、子どもたちを取り巻く環境の変化はどのようなことがあるか課題を出し合い、ずっと住み続ける地域でいられるために必要なこと、支え合えることがないかを検討する。
5		三郷区の人や自然など美しい風景の魅力発信について	R7. 1. 28	三郷区の魅力である風景、見どころ、行事などを見つめなおし、その魅力を守っていくには、また情報を発信していくにはどうしたらよいかを話し合う。
6		三郷小学校閉校後の諸課題について	R7. 8. 28	令和8年3月末で三郷小学校が閉校することに伴い、小学校を会場に行ってきた地区の行事の継続や、スポーツ団体等の練習場所の不足、災害時の指定避難所としての不安など、諸課題の解決について審議する。

地域協議会で現在審議中の自主的審議事項一覧（R7. 12. 25現在）

No.	地域協議会	審議事項	審議 開始日	概要 ※審議開始時のもの
7	直江津区	直江津まちづくり構想について	H25. 2. 14	直江津のまちづくりについて、駅前のにぎわい創出、駅前と商店街の活性化、朝市や歴史的建造物の観光PR、駐車場不足の問題、地域に暮らす人々の生活面の充実など、直江津が抱える様々な課題を総合的に検討するもの。
8		地域ぐるみの防災活動の推進について	R5. 10. 10	直江津区は津波や水害等のリスクが高い地域であることから、地域防災力の維持・向上のために実効性のある自主防災組織の再構築に向けて協議・検討するもの。
9	有田区	カルチャーセンターのさらなる利活用について	R7. 5. 12	当区の中核的施設であるカルチャーセンターを、より広い地域や世代から利用してもらうことが当区の活性化につながることから、さらなる利活用に向けて検討するもの。
10	八千浦区	保倉川放水路と八千浦区のまちづくりについて	R4. 3. 22	保倉川放水路の建設は地域住民の生活等に大きな影響を与えるものであるが、八千浦区のまちづくりを再考する機会と捉え、若い世代が集まって来るような新しいまちづくりについて検討するもの。
11		海岸線の安全・安心について	R4. 3. 22	直江津港港湾区域の交通規制や道路の管理の在り方について、直江津港を利用する釣り人や地域住民の安全・安心の観点から、検討するもの。 海岸のごみは、住民でごみ拾いを行っているが、地区外の来訪者が出すごみや漂着ごみも多く、対応が追い付かない状態にある。海岸美化のために、地域住民やボランティア団体、来訪者が一緒にごみ拾いをするような仕組み等を検討するもの。 季節風のため道路に砂が堆積し、そこから草が生えて道幅が狭くなる。定期的な砂の除去等について、安全確保の観点から検討するもの。

地域協議会で現在審議中の自主的審議事項一覧（R7. 12. 25現在）

No.	地域協議会	審議事項	審議 開始日	概要 ※審議開始時のもの
12	谷浜・桑取区	来訪者を受け入れるための地域づくりについて	R5. 8. 2	多くの方から訪れて頂ける地域となるため、谷浜・桑取区の認知度等を把握することを目的とした来訪者アンケートを実施する。アンケート実施に向けて、項目の検討や関係団体との協議を行うもの。
13	安塚区	旧安塚中学校の利活用について	R6. 8. 27	令和6年3月に閉校した旧安塚中学校の利活用について検討するもの。
14	大島区	大島区の公園の在り方について	R7. 9. 30	当区には農村公園や児童遊園が複数ある。使えない遊具がある公園や管理が行き届いておらず除草されていない公園がある。 少子高齢化が進む大島区の公園の在り方について検討するもの。
15	牧区	あらゆる人が安全・安心に住み続けたい「牧づくり」について	R3. 9. 7	子育て世代の保護者との意見交換をととして、区内で生活するなかで、具体的な課題が挙げられた。それらを踏まえ、今後、子育て世代に留まらず、地域に寄り添い、牧区内で暮らすあらゆる人が安全・安心に住み続けたいと思える「牧づくり」について検討するもの。
16		統合後の牧中学校の利活用について	R7. 5. 22	市教育委員会から、令和9年4月に牧中学校を雄志中学校に統合する方針が示されたことを受け、統合後の施設の利活用について検討するもの。

地域協議会で現在審議中の自主的審議事項一覧（R7. 12. 25現在）

No.	地域協議会	審議事項	審議 開始日	概要 ※審議開始時のもの
17	柿崎区	柿崎山岳会解散後の米山登山道等の維持管理及び魅力発信を考える	R6. 10. 31	柿崎山岳会が令和8年3月をもって解散することから、これまで柿崎山岳会が担ってきた米山山頂避難小屋やトイレ、登山道の維持管理のあり方と、地域の活性化を図るため米山の魅力の発信方法を検討する。
18		スポーツを通じた地域振興・地域活性化を考える	R6. 10. 21	区内には総合体育館や野球場、人工芝グラウンド、屋内水泳プール、テニスコートなど多くのスポーツ施設が整っていることから、施設の魅力を高め利用者増を図るため、施設の活用方法と情報発信方法を検討する。
19		住民、地域、団体をつなぐ新たなネットワークの構築を考える	R6. 10. 28	地域振興や移住・定住の促進、関係人口増加に向けて、住民、地域、団体・事業者が協力・連携し、柿崎区の魅力をはじめ、さまざまなイベントや話題など、投稿型の情報を発信することができるネットワークの構築を検討する。
20	大潟区	大潟区の「まちづくり」について	R7. 1. 16	大潟区をより暮らしやすい地域にするため、地域公共交通の改善、青少年や子育て世代など多世代の居場所や活動の充実、人口減少対策の推進をテーマに現実的な方策を検討するもの。
21		大潟区の「地域の魅力の向上」について	R7. 1. 16	鵜の浜温泉、北國街道・潟町宿をはじめとする大潟の歴史遺産や観光資源の魅力を発信について検討するもの。

地域協議会で現在審議中の自主的審議事項一覧（R7. 12. 25現在）

No.	地域協議会	審議事項	審議 開始日	概要 ※審議開始時のもの
22	吉川区	公民館を含む地域活動の促進と施設の有効活用について	R2. 12. 17	<p>吉川区では市町村合併後、7つの地域づくり会議を組織し公民館活動を担ってきたが、人口減少・少子高齢化に伴い年々活動が衰退し、地域の絆が希薄となり元気がなくなっている。</p> <p>この状況下で公民館分館が、公の施設の適正配置計画案では貸付の方針が打ち出された。施設は、閉校した学校を利用し、地域の核として長年、地域の人たちが集い、交流を深め、活動してきた施設である。</p> <p>そこで、各地域の皆さんと意見交換等を行い、これからの公民館を含む地域活動の促進及び施設の有効な利活用を検討するもの。</p>
23		尾神岳周辺の観光振興と道の駅よしかわ杜氏の郷の活性化について	R6. 2. 15	<p>吉川区では、尾神岳、道の駅よしかわ杜氏の郷を観光スポットとして位置付け、旧吉川町時代から観光振興策を進め、合併後においても、市による施設の運営や維持、地元観光協会による観光振興を進めてきた。</p> <p>地域協議会が実施した住民アンケートにおいても、吉川で自慢できるものとして、尾神岳と道の駅は、各々多くの票を集めた。地域協議会では、尾神岳と道の駅を地域振興の鍵として位置付け、活性化策について検討することとした。</p>
24		若者の移住定住につながる魅力的な子育て支援策について	R6. 2. 15	<p>上越市内では、生活習慣や就労、社会環境などの変化に伴い、少子高齢化とともに人口減少が進んでいるが、特に吉川区においてはその状況が顕著であり、このまま放置すれば、産業はもとより、地域活動の維持も困難となり、地域・故郷の消滅が危惧される。</p> <p>地域協議会内に若者移住定住部会を設置し、これまで調査や意見交換を行ってきた内容を基に、将来の担い手・人材確保の観点から、青年層の定住・移住希望者へのアピール度が高いと思われる支援策、特に子育て支援策について検討するもの。</p>
25		消火栓使用の在り方と有効活用について	R6. 11. 21	<p>近くで火災が発生した際、消防車が到着するまで時間がかかる。その間、住民が消火栓を使用し消火活動を行うことが有効と考えるが、市では市民は消火栓を使用しないようにと説明している。有効な消火活動等について検討を行うもの。</p>

地域協議会で現在審議中の自主的審議事項一覧（R7. 12. 25現在）

No.	地域協議会	審議事項	審議 開始日	概要 ※審議開始時のもの
26	中郷区	中郷区型コミュニティバスのあるべき姿について	R4. 7. 26	<p>今年6月に中郷区在住の中学生を除く15歳以上全員を対象にアンケート調査を実施し、対象者約3,100人に対し、2,029件（約65.4%）の回答を得た。</p> <p>また、現行の路線バス（乗合タクシー）の廃止が懸念される中、アンケートに寄せられた公共交通の充実や高齢者・子どもの居場所づくり、登下校の安全対策などへの取組を望む回答への対応として、中郷区におけるコミュニティバスのあるべき姿について検討するもの。</p>
27		「い～住プロジェクト」について	R7. 7. 28	<p>中郷区で進行する過疎化への危機感から、転出者との情報共有やU・I・Jターン者の受け入れ態勢の構築を目指し、いつまでも住み続けたいまちづくりに向けて検討するもの。</p>
28	板倉区	板倉区の各種団体が連携した地域活性化について	R3. 12. 21	<p>板倉区が特色ある地域活性化をすすめる上で、各種団体がどう連携したらよいか検討するもの。</p>

地域協議会で現在審議中の自主的審議事項一覧（R7. 12. 25現在）

No.	地域協議会	審議事項	審議 開始日	概要 ※審議開始時のもの
29	清里区	坊ヶ池周辺の資源（自然や施設）を活用した地域の活性化	R5. 9. 28	<p>清里区の象徴である坊ヶ池の周辺には、自然豊かな「坊ヶ池湖畔公園」、県内最大の望遠鏡を備え、デジタル投影のプラネタリウムを鑑賞できる「上越清里星のふるさと館」、交流の場として農業団体が活用している「ビュー京ヶ岳」があり、様々な取組により、市内外から多様な来訪者呼び込んでいる。</p> <p>それぞれの取組は、地域住民が様々な形で関わり、雇用はもちろん、地産地消、農福連携、教育への貢献など、地域振興が図られ、地域愛も醸成されている。</p> <p>地域協議会として、坊ヶ池周辺の資源（自然や施設）を活用した活性化の取組を考えることが将来にわたる清里区の活性化につながるものと考え、自主的審議として検討することとする。</p>
30		子育て世帯、高齢者世帯が安全で安心して暮らせる環境の整備	R5. 9. 28	<p>子育て世帯は、核家族化と両親共働きといった世帯が多く、保護者等が就労等により不在となる時間帯においては、児童は一日の授業終了後、市が開設する放課後児童クラブに通い、未就学児は延長保育等の制度を利用している。</p> <p>しかしながら、発熱や風邪等の症状がある児童及び未就学児にあつては、放課後児童クラブや延長保育等の制度が利用できない状況にあり、保護者等が一定期間面倒を見ることにより、様々な面において過度の負担となっている。</p> <p>高齢者世帯では、夫婦のみや一人暮らしといった世帯が増加傾向にあり、特に冬期間における玄関や市道までの私道の除雪等が困難な状況にある。</p> <p>このことから、地域協議会では、子育て世帯における病児の育児にかかる保護者の負担を軽減する仕組みの検討と、高齢者世帯における冬期間の生活道路等の確保対策を考えることにより、安全で安心して暮らせる地域にしたいと考え、自主的審議として検討することとする。</p>



地域協議会で現在審議中の自主的審議事項一覧（R7. 12. 25現在）

No.	地域協議会	審議事項	審議 開始日	概要 ※審議開始時のもの
31	三和区	三和の自然環境を守りながら、持続可能な農業を目指す取組について	R7. 4. 28	農地や山林の放棄地が増加し、荒廃する土地の保全対策が課題となる中、土地を荒らさずに持続可能な農業を目指す取組について検討するもの。
32		地域コミュニティを維持するための仕組みづくりについて	R7. 4. 28	少子高齢化の進行に加え、コロナ禍を経た中で、地域内の活動・交流が停滞傾向にあるため、健康づくり、防災、地域活性化など、さまざまな視点から地域コミュニティを維持する仕組みや方策について検討するもの。
33	名立区	ろばた館の利活用について	R5. 6. 29	市から、令和7年3月31日を目途にろばた館の温浴と市営としての食堂機能を廃止する方向で検討を進める方針が示された。 これを受けて、機能廃止後を見据えた名立区の地域振興に資するろばた館の利活用方法を検討するもの。
34		名立の魅力発信と持続可能な集落・地区の促進について	R7. 5. 29	これまで、各HP等では、観光イベント情報や見どころ紹介といった対外向けの情報や、区内在住者には行事予定の周知を主とした情報発信を行っているが、「名立に住みたい（住み続けたい）」と思わせるような視点での情報発信は行われていないと考えられることから、名立の魅力を発信することで、「子どもや若い世代の定住」、「移住の促進」を図るため、その方法について検討するもの。